

**学校名** 幸手市立上高野小学校  
**所在地** 幸手市上高野1009  
**電話** 0480-42-0350

## 1 本校の概要

本校は、特別支援学級2クラスを含む14クラス、児童数299名の中規模校である。明治6年に開校した歴史ある学校で、周辺には、昔ながらの上高野神社や田園風景が広がる一方、大きな商業施設や圏央道ができ、都市化が進んでいる。

## 2 本校の実践

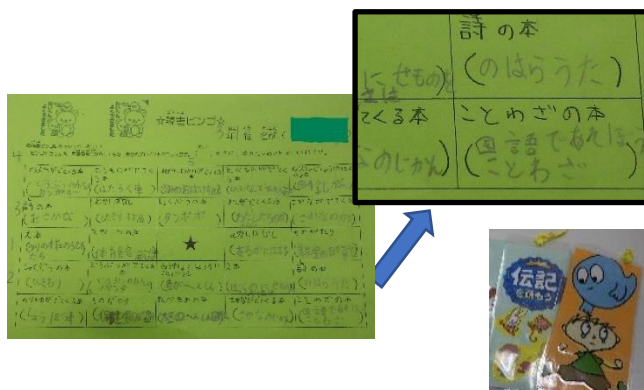
### (1) 実践の視点

- ・ 読書に親しむ態度や読書習慣に関わる取組
- ・ 言語活動の充実など学力向上に結び付けた取組

### (2) 実践の概要

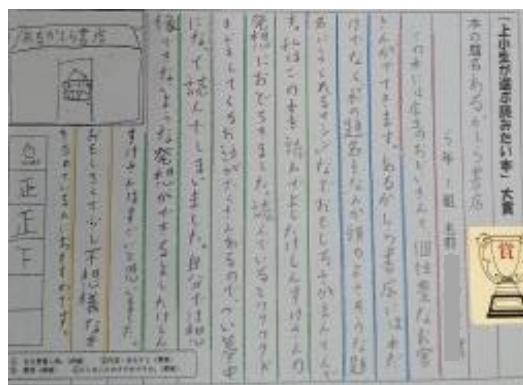
#### ア 読書ビンゴカードの取組

図書委員の活動の一環として、行っている。ビンゴカードにあるジャンルの本を読むことで、カードを埋めていく。ビンゴになると、図書委員が作成したしおりをもらうことができる。



#### イ 上小生が選ぶおすすめの本大賞

校内研究の手立ての一つとして取り組んでいる。国語で培った読み方を生かし、筆者の考えや意図、主張を読み取り、内容を理解 (input) し、自分なりに解釈して相手に伝え表現する活動 (output) を通して、児童の読解力の基礎基本の力を高めることを目的として、業前の時間に実施している。その際、文型に沿ってカードを記入し、表現力の向上にもつながるようにするとともに、より工夫した文章を書いた児童には大賞を贈っている。



↑大賞を受賞した児童のカード



←教室の掲示

## 3 成果と今後の課題

### (1) 成果

ア 年間の読書目標を設定し、年度当初から、読書活動を推進しているが、冊数やページ数にこだわり、読書の質やジャンルの幅を広げることが難しかったため、この取組を通して、それらの課題を改善することができた。普段手に取らない本を読んでみることに繋がった。

イ 4つの視点 (登場人物、出来事、読んで分かること、おすすめの相手 等) に沿って、読んだ物語や説明文の紹介文を、相手意識をもって書くことに慣れてきた。

### (2) 課題

ア 高学年は、1冊読み切るのに時間がかかるため、なかなかビンゴ賞に至らなかった。

イ 段階を踏まえ、どのように文型を外していくか検討が必要である。

### (3) おわりに

今回紹介したものは、本校の実践の一部であり、この他に朝読書、読み聞かせの実施、午後の読書タイムの取組など、様々な活動を行っている。それぞれの活動がより充実したものとなり、読書活動を通して、児童の学力の向上にもつながっていくよう、これからも活動を検討していきたい。